

病害虫発生予報の見方について

病害虫防除所では、向こう1か月の病害虫の発生を予測した病害虫発生予報を毎月発表しています。予報の作成にあたっては、圃場巡回調査及びフェロモントラップ調査の結果や病害虫防除員からの情報等を過去のデータと比較しながら、各病害虫の発生生態や向こう1か月の気象予報等を考慮して検討しています。ここでは予報をご理解いただくために、予報の見方について説明しますので参考にしてください。

【注意すべき病害虫】

向こう1か月の間に多発生が懸念され警戒すべき病害虫や、例年その月に発生が問題となる病害虫について記載しています。

1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
やや早い	多い	県下全域

予報の対象地域

向こう1か月の予測を、「平年値」との対比により記載します。

平年より

「早い」(6日以上),
「やや早い」(3~5日),
「平年並」,
「やや遅い」(3~5日),
「遅い」(6日以上) で表記します。

特定しない場合は、「-」で表記します。

向こう1か月の予測を、「平年値」との対比により記載します。

平年より

「多い」,
「やや多い」,
「平年並」,
「やや少ない」,
「少ない」 で表記します。

特定しない場合は、「-」で表記します。

【予報の根拠】

予報内容の根拠を記載します。圃場巡回調査やフェロモントラップ調査の結果等に基づく現在の発生状況、予想される気象条件が対象病害虫に及ぼす影響等について記載しています。

- ① ○月下旬現在、被害葉率、発生地点率ともに平年より高い。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

【防除上注意すべき事項】

防除を行う際に、注意すべき事項等について簡潔に記載しています。

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードもしくは系統の異なる剤を用いてローテーション散布する。なお、薬剤散布は、古い下葉を除去してから行うと効果的である。
- ③ ミツバチや天敵を導入している場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

病虫害発生予報の見方について（続き）

【その他の病虫害】

「注意すべき病虫害」ほどではないが、例年より発生が多い等、注意を要する病虫害を記載しています。

作物	病虫害名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
促成ピーマン	斑点病	発生量：やや多い	〇月下旬現在、平年よりやや多い発生である。

主に発生量の予測について記載します。発生量や発生時期については、「注意すべき病虫害」と同様に表記します。

現在の発生状況等を中心に記載します。その他、特記事項や防除対策について簡潔に記載する場合があります。

予報等に記載される用語例

病虫害防除所が発表する予報等の病虫害に関する情報では、いくつか特徴的な用語を使用していますので、主に記載される用語について簡単に解説します。

- 発病度、被害度

調査圃場における対象病虫害の発生状況等を客観的に評価するため、調査株を被害程度別に区分・集計して数値化したものです。最小値は0で最大値は100となります。

- 発生地点率

当所の圃場巡回調査で、対象病虫害の発生や被害が見られた地点（圃場）の割合です。

- 平年値

過去10年間の調査データの平均値です。気象データの場合は、過去30年間の平均値です。

- フェロモントラップ

主に性フェロモンを誘引源として、対象害虫を誘殺する装置です。害虫の発生状況を調査するために利用しています。

- 予察灯

夜間に電球を点灯し、光に集まる虫を毎日誘殺する装置です。害虫の発生状況を調査するために利用しています。